

報告事項ウ

2 1 世紀型学力検討委員会の開催について

2 1 世紀型学力検討委員会の開催について、別紙のとおり報告します。

平成 3 0 年 9 月 1 0 日

鳥取県教育委員会教育長 山 本 仁 志

## 21世紀型学力検討委員会の開催について

平成30年9月10日  
高等学校課

- 高大接続改革に組織的に対応するため、平成28年6月に「21世紀型学力検討委員会」を設置したのを皮切りに、「アクティブ・ラーニング研究WG」「基礎学力向上WG」「学力向上WG」の3つのWGを設置して各テーマについて検討を行っている。
- このたび本年度第1回目の「21世紀型学力検討委員会」を開催し、特に対応の検討が急がれる「高校生のための学びの基礎診断」、生徒の学習履歴の蓄積（ポートフォリオ）について協議を行った。

- 1 日 時 平成30年7月31日（火）午前10時から正午まで
- 2 場 所 鳥取県庁第二庁舎5階第1教育会議室
- 3 出席者 県内高等学校長：計7名  
県教育委員会：高等学校課長、高校教育企画室長 他 計5名
- 4 概 要

- 「高校生のための学びの基礎診断」については、文部科学省が認定ツールの申請状況について平成30年7月13日付けで公表（審査を経て10月～11月に認定予定）。既に多くの高校で受験しているツールが申請されている状況。
- 10月～11月の認定状況を考慮する必要があるが、当面受験については各学校で判断という方向性。ただし、受験しない学校が不利にならないよう、結果の副次的な利用は行わないでもらいたいということ国へ要望していく。
  - ※「高校生のための学びの基礎診断」  
…「基礎学力の確実な習得」「高校生の学習意欲の喚起」を図るため、高校における学習成果を測定するツールの1つとして活用できるよう、国が一定の要件を示し、それに則して民間の試験等を認定する仕組みを創設。
- 生徒の学習履歴の蓄積（ポートフォリオ）については、文部科学省の方針（調査書の電子化の在り方等）がまだ具体的に示されておらず、大学がどのような学習履歴を求めるのかも不明な中、「JAPAN e-Portfolio」、民間事業者のツール、紙ベース、学事支援システムの所見欄を活用など、各校がそれぞれに取り組んでいるのが現状。
- 現時点での対応方針は出ないが、引き続き国、大学、他自治体からの情報収集及び情報提供に努めていく。
  - ※ポートフォリオ  
…生徒の日々の学習成果（レポートやプリント、制作物なども含む）や活動の記録を蓄積したもの。大学入試において、「調査書」や「志望理由書」などを通して高校での学習・活動履歴を評価する動きに対応するために、様々な体験や活動の記録をポートフォリオに蓄積していくことが求められる。

### (1) 高大接続改革に向けた対応

#### ア 「高校生のための学びの基礎診断」への対応について

- ・文部科学省が認定ツールの申請状況について平成30年7月13日付けで公表（審査を経て10月～11月に認定予定）。既に多くの高校で受験しているツールが申請されている状況。
- ・経年で見えていくことが必要。今さら変えるのは難しい。
- ・もとは全国統一のテストができないかという発想だったが、それが崩れてきた。以前から各学校が生徒の学力をつけるために取り組んできている。学校ごとの判断に任せるべき。
- ・すでに多くの模試等を実施しており、さらに保護者の費用負担を増やしたくない。
- ・費用対効果を考えるなら自前のテストでもよい。本当に生徒のためになるものなのか。

- ・受検が必須ではないとするなら、なおさら結果の副次的な利用（進学・就職試験等で活用するなど）は行わないでもらいたい。専門高校においては、専門校長会が実施する検定等の方をもっと評価してもらいたい。
  - ・専門高校では2年生から国数英の授業が少なくなっていく。受検するとしても1年生だけだろう。
  - ・そもそも何のための制度なのか。受検料について、学校のPDCAのためなら学校が負担するべきであり、県が加配等を考えるためなら県が負担するべきであり、生徒自身のためなら生徒が負担するべき。そのあたりが曖昧である。
  - ・まとめると、受検については各学校で判断という方向性。ただし、受検しない学校が不利にならないよう、結果の副次的な利用は行わないでもらいたいということを要望していく。
  - ・授業時間内に実施することは可能か。
- （高等学校課）確認してまた周知する。

### イ 生徒の学習履歴の蓄積（ポートフォリオ）への対応について

- ・文部科学省の方針（調査書の電子化の在り方等）にまだ具体はなく、大学がどのような学習履歴を求めるのかも不明な中、「JAPAN e-Portfolio」、民間事業者のツール、紙ベース、学事支援システムの所見欄を活用など、各校がそれぞれに取り組んでいるのが現状。
  - ・大学がどのような学習履歴を求めるのか予測できないのか。生徒に多くの記録を残させているが、どこまで詳しく必要なのかわからない。
- （高等学校課）どのような学習履歴を求めるのかは大学によって異なる。今年度中に各大学が平成33年度入学者選抜方法等を予告・公表。
- ・求められる学習履歴は、大学、学部、学科、入試形態等によって異なるので、生徒は最大限残しておかなければならない。結果的にほとんど役に立たなかったということもあり得る。
  - ・紙媒体でも問題ないとは思いますが、将来的な生徒や教員の負担のことを考えると、今から電子媒体で残しておいた方がよいのでは。
  - ・民間事業者のポートフォリオには有料のものもあるが、将来的に使うか使わないかわからないものにお金は払えない。
  - ・県で統一したポートフォリオを使うのは現実的に難しいのでは。
- （高等学校課）他県の教育委員会や学校もまだ手探り。大学、たとえば鳥取大学も今のところ「JAPAN e-Portfolio」に参画しない。理由としては、高校生の活用がまだ進んでいないこと、また、参画する大学は数百万の費用を払わなければならないこと。大学も一歩が踏み出せないというのが現状。
- ・大学進学を目指す生徒が少ない学校では、電子媒体の活用は難しいのでは。
  - ・学事支援システムを変更するタイミングで、生徒のポートフォリオのデータが取り込めるようなシステムになるとよいが。
  - ・ポートフォリオへの対応については、結論は出ないが、引き続き情報収集及び情報提供に努めていきたい。

### ウ その他

- ・ワーキンググループで新しい学力観について考えてみてはどうか。

### (2) その他

- ・9月～10月に第2回目を開催予定。

## 高等学校教育改革

### 《「学力の3要素」の確実な育成》

#### ✓ 教育課程の見直し

- 平成28年12月答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について」
- 平成30年3月高等学校学習指導要領を改訂（育成すべき資質・能力を踏まえた教科・科目等の見直し）

#### ✓ 学習・指導方法の改善と教師の指導力の向上

- 「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」について学習指導要領と一体で議論
- 平成27年12月答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」
- 「教育公務員特例法等の一部を改正する法律案」（教育公務員特例法、教育職員免許法、教員研修センター法の一括改正）が成立（平成28年11月）

#### ✓ 多面的な評価の推進

- 「高校生のための学びの基礎診断」の認定基準等を策定（平成30年3月）
- 「キャリア・パスポート（仮称）」の調査研究を実施（平成29年度から）
- 高校学習指導要領の改訂を踏まえ、指導要録参考様式を見直す予定（平成30年度以降）
- 「検定事業者による自己評価・情報公開・第三者評価ガイドライン」を策定（平成29年10月）

## 大学教育改革

### 《「学力の3要素」の更なる伸長》

#### ✓ 「三つの方針※」に基づく大学教育の質的転換

- 「三つの方針」の一体的な策定・公表の制度化（平成29年4月施行）
- 「三つの方針」策定・運用に関するガイドラインを国が作成・配布

#### ✓ 認証評価制度の改善

- 「三つの方針」等を共通評価項目とし、平成30年度から認証評価に反映

※「三つの方針」とは、卒業認定・学位授与の方針、教育課程の編成・実施の方針、入学者受入れの方針を指します。

## 大学入学者選抜改革

### 《「学力の3要素」の多面的・総合的評価》

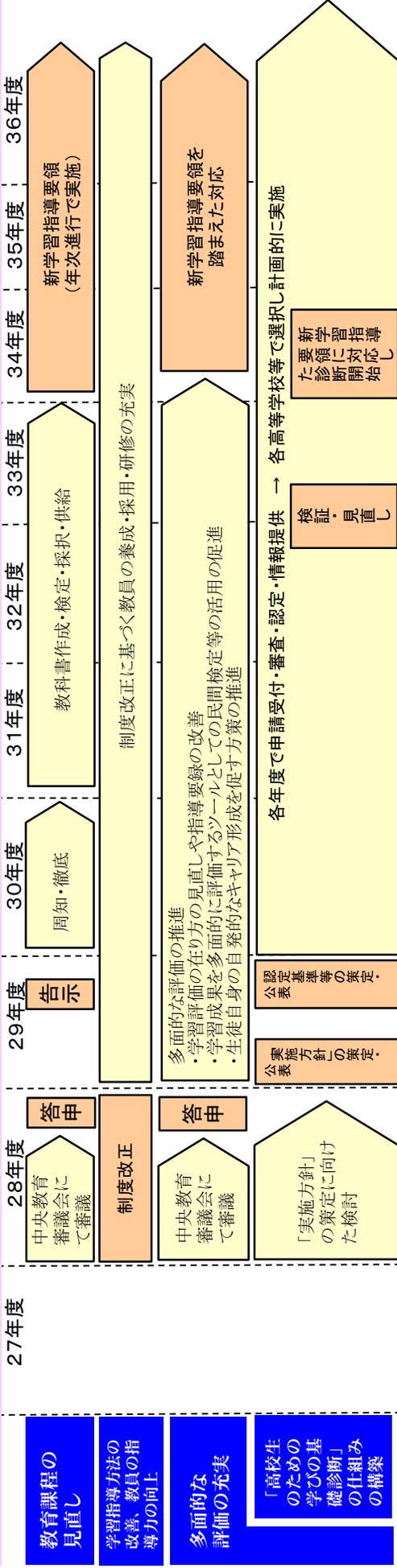
#### ✓ 個別入学者選抜の改革

- ◎ 明確な「入学者受入れの方針」に基づき、「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する選抜へ改善
  - 新たな評価方法の開発・普及（平成28年度から）
    - ▶ 大学入学者選抜改革推進委託事業
  - 「平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告」を決定（平成29年7月）
    - ▶ 入学者選抜に関する新たなルールの設定
    - ▶ 調査書・提出書類の改善

#### ✓ 「大学入学共通テスト」の導入

- ◎ 思考力・判断力・表現力の一層の重視
- ・ 「大学入学共通テスト」の実施方針を決定（平成29年7月）
  - ▶ 【国語】【数学】…記述式問題を導入
  - ▶ 【英語】…4技能（読む・聞く・話す・書く）を適切に評価するため、民間等が実施する資格・検定試験を活用

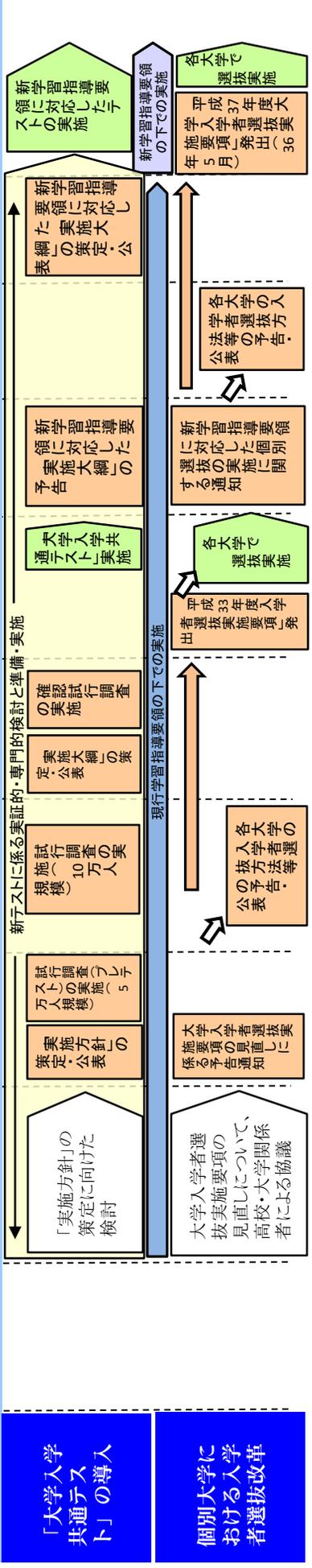
【具体的方策】1. 高等学校教育改革



【具体的方策】2. 大学教育改革



【具体的方策】3. 大学入学者選抜改革



## 平成30年度第1回「21世紀型学力検討委員会」出席者名簿

所属・職名	氏名
鳥取東高等学校長	尾室 真郷
鳥取湖陵高等学校長	濱崎 公嗣
倉吉東高等学校長	御船 斎紀
倉吉農業高等学校長	田中 正士
米子西高等学校長	富田 運一
米子南高等学校長	永野 智之
鳥取敬愛高等学校長	二階堂 茂夫
県教育委員会事務局高等学校課長	徳田 章人
県教育委員会事務局高等学校課 高校教育企画室長	福本 哲也
県教育委員会事務局高等学校課 高校教育企画室係長	尾崎 浩三
県教育委員会事務局高等学校課 高校教育企画室指導主事	徳永 雄之
県教育委員会事務局高等学校課 高校教育企画室指導主事	甲斐 清
県地域振興部教育・学術振興課課長補佐	西田 和弘